

会 議 録

1 附属機関等の会議の名称

令和2年度第2回美里町在宅医療介護連携推進会議

2 開催日時 令和2年11月24日（火）午後6時30分から午後7時50分まで

3 開催場所 美里町健康福祉センター 大広間

4 会議に出席した者

（1）委員

玉手英一委員、大蔵暢委員、野田清一委員、高橋均委員、佐々木義夫委員、
尾形文克委員、伊藤恵委員、武田輝也委員

（2）事務局

渡辺克也、伊藤博人、相原浩子、五十嵐華絵、小林公美

（3）その他

涌谷町福祉課包括支援班 中野目裕美、早坂宏美

宮城県北部保健福祉事務所 小笠原貴望

町民生活課 小林晃太郎

5 議題及び会議の公開・非公開の別

議事

美里町の認知症高齢者に係る状況及び認知症事業について

第8期介護保険事業計画に向けた在宅医療介護連携推進事業の方向性について

その他

在宅医療介護連携推進事業の報告について

「わたしたちのまちの在宅医療と介護マップ（仮称）」について

高齢者の保健事業と介護予防事業の一体的事業について

会議の公開・非公開の別

公開

6 非公開の理由

7 傍聴人の人数

0人

8 会議資料

別紙のとおり

9 会議の概要

座長 野田清一委員

署名委員 佐々木義夫委員、尾形文克委員

(2) 議事

| | |
|---|--|
| <p>(1) 美里町の認知症高齢者に係る状況及び認知症事業について</p> <p>事務局 相原より、美里町の認知症高齢者に係る状況について説明</p> <ul style="list-style-type: none">・美里町では、認知症の相談が少なくなく、医療と介護の連携が必要と考えているため、認知症事業について会議の中で報告しご意見をいただきながら、在宅医療介護連携推進事業にも活かしていきたい。・第8期介護保険事業計画策定に向けて、令和2年1月に高齢福祉に関するアンケート調査を実施した。「認知症に関する相談窓口を知っているか」という質問に対して、「知っている方」は、35.5パーセントで、私たちが考えていたよりも低いと感じた。地域包括支援センターの相談実績からは認知症の相談が多く、新規に介護認定の申請をする理由も認知症を原因とする方が多くなっている。 <p>事務局 五十嵐より、令和2年度認知症関係事業の実施状況と課題、第8期介護保険事業計画で取り組む事項について説明</p> <ul style="list-style-type: none">・第8期介護保険事業計画では、認知症の理解と認知症の方と介護者を支援するしくみづくりを進めるため、認知症の啓発と地域での支援者の活動を促進することを目標とし、重点的な取り組み事項として大きく4つをあげていく。 | |
| 大蔵委員 | 認知症事業については、どこからかやるように指導があつて実施しているのか、それとも美里町が主体的に考えてしているのか。 |
| 相原 | 認知症に関しては、認知症の方が急に増えたわけではなく、以前から認知症事業に取り組んできた。国から認知症の事業を推進するよう言われているが、細かい事業内容については市町村のやり方であることになっている。美里町では認知症の相談が年々増えているのが気になる場所なので、そこを在宅医療介護連携の核にしなが、事業展開を図っていければと思っている。 |
| 大蔵委員 | 在宅医療介護連携推進事業の枠組みの(ア)～(ク)に認知症事業も含まれるのか。 |

| | |
|-------|--|
| 相原 | <p>認知症の事業をしなさいというわけではないが、その市町村によって、何をテーマにして行うか、町の課題に合わせて医療介護連携については実施することになっている。美里町では、認知症の事業について取り組んでいけるといい町になるのではないかと考えている。ただ、もっとこういうことをした方が良いのではないかと、このような視点、または、方法でした方が良いという意見があればお願いしたい。</p> |
| 大蔵委員 | <p>日本全国の市町村が同じようなことをしていると思うが、美里町として他でやっていないものはあるのか。</p> |
| 相原 | <p>美里町で独自で行っているものとしては、認知症介護予防事業は全国でしている市町村もあるが、この近辺ではないと思われる。取り組み方は、市町村でそれぞれである。多職種連携の研修会は以前からずっと行っているが、ここ数年、認知症をテーマにして専門職と一緒に学習したり、グループワークをしたりしている。認知症初期集中支援推進事業については、国からやるようにとされているものだが、美里町では事業が始まる前から精神保健相談というかたちで、精神科の医師に毎月1回来てもらい、医師と一緒に自宅へ訪問し、なかなか医療機関にかかれない方に対して、家族への相談や支援をしたり、医療機関へ結びつけることをしてきた。</p> |
| 野田委員 | <p>認知症の事業がこれだけあるのかと初めて知り、大変だなと思った。他市町村もこれだけの事業をしているのか。</p> <p>先程、認知症の相談が増えているという話があったが、介護認定審査委員をしていると、認知症で申請する方が多くなったと感じている。少し前は脳血管疾患で申請する方が多かったが、認知症の方が多いのか。</p> |
| 相原 | <p>認知症の方が多い。</p> |
| 佐々木委員 | <p>この2年間、認知症の相談が多いということだったが、軽度・中度・重度のどの時点で相談にくるのかによって、事業の具体的な内容が変わってくると思う。私の経験では、重度になってから相談されることがほとんどで、もっと事前に知ることができ、対応ができれば、もっと緩やかな流れにすることができるのではないかと考える。実際どの程度で相談にくる方が多いのか。</p> |
| 相原 | <p>私たちが相談を受けている感覚では、どこが多いというのではなく、まんべんなく来ている。ちょっとしたもの忘れから「大変だ」と相談に来る方もいれば、ここになるまでの間に声をかけてくれればと思う方もいる。もの忘れがあっても、その方が住んでいる環境によって、家族が大変だと思っていたり、思っていなかったりする。私たちが大</p> |

| | |
|------|---|
| | <p>変だと思っても、家族は大丈夫と感じていて、勧められたから申請に来たという方もいる。しかし、佐々木委員が言っていた部分は、来年度以降、統計がとれれば、事業の取り組み方の参考にしたいと思う。</p> |
| 大蔵委員 | <p>今の質問に関係あるかもしれないが、この調査をみると、美里町には、65歳以上の方が8,386人いて、1,500人分のアンケートを送って、回収が1,100人になっている。どのように1,500人を選んでいるのか。</p> |
| 伊藤 | <p>1,500人については、ランダムで選んだ方にアンケートを依頼している。地域等の指定はせず、パソコンで抽出をかけた。</p> |
| 大蔵委員 | <p>要介護5の寝たきりでコミュニケーションがとれない高齢者にも質問用紙がいつているのか。</p> |
| 伊藤 | <p>1,500人については、元気な高齢者に対して行っている。 今回、二つのアンケートを実施しており、要介護の方は全ての方に計画作成にあたってのアンケートを実施している。1,500人に関しては、要介護ではなく、元気な方から要支援の方を対象に、1,500人をランダムに抽出をかけて実施している。</p> |
| 大蔵委員 | <p>比較的軽い、元気で健康な高齢者のニーズということですね。</p> |
| 尾形委員 | <p>認知症の方は、診断が出ている方が多いと思うが、町の方で重点的に関わっていかなければならない、困難な方は全体的からみてどれくらいの割合になっているのか。</p> |
| 相原 | <p>感覚的などころになるが、毎日重度な相談がくるわけではない。今すぐに相談に入らないといけない、医療機関に連絡したり、ケアマネジャーと相談を始めた方が良いという方に関しては、月1～2件である。</p> |
| 伊藤委員 | <p>訪問看護なので、在宅に行くと、介護者が認知症かもしれないと思う方がいる。認知症の検査を勧めたいと思うが、介護者自身が、「私がぼけているなんて」という感じになるとなかなか勧めることができない。家族の協力があるところは良いが、老々介護で家族が遠方にいるという方もいるので、受診や診断につながるまでが困難だなと感じる場面が増えたと思う。ケアマネジャーには、協力的に相談にのってもらってはいるが、本人たちが困っていないと何も進まなかったりするので、そういうところをもどかしい。</p> |
| 野田委員 | <p>基本的に、認知症は、家族からの申請がないと対応することはできないのだろう。そういうところをもどかしい。</p> |
| 相原 | <p>本人や家族が心配していなくても、周りの近所の方や区長、民生委員から気になる家なので行って見てほしい、本人たちと話をしてくれ</p> |

| | |
|---|---|
| | ないか、ということで相談があがってくることもある。 |
| 野田委員 | そういうケースも多いのか。 |
| 相原 | 実は、そういう方の方が多いかもしれない。 |
| 野田委員 | コミュニティがしっかりしているところだったら良いですね。 |
| 相原 | 第8期の計画を進めていく時に、先程のアンケート調査からもだが、本人が気づくことはなかなか難しく、元気に色々な活動をしている方は認知症ではないので、認知症というのはこういう病気なんだというのを地域の方に知ってもらう取り組みができると良い。また、家族を支援できるように企業や子供達に病気のことを知ってもらうことも重点的に進めていければと考えている。そこで、重点的に取り組む事項を、これだけではないが4つあげた。こういう方向性で進めて良いか、ご意見をいただきたい。 |
| 玉手委員 | 病院では、デイサービスや介護施設の職員からの相談がきっかけになることがある。もし、何か施策を考えるとしたら、その辺のアプローチもあるかもしれない。 |
| 相原 | ご意見ありがとうございます。 |
| 野田委員 | 病院では、施設からの相談が多いのか。 |
| 玉手委員 | 本人が認知症だと言ってくることはなく、困っているところから相談がくる状況である。 |
| 野田委員 | 重点項目の4つについて他の意見はあるか。 |
| | (特に意見なし) |
| 野田委員 | 方向性としては、これで進めて良いと思う。 |
| 相原 | 来年度以降も定期的に認知症に関しては、在宅医療介護連携推進会議の中で報告し、意見をいただきながら進めていきたと思っているので、よろしく申し上げます。 |
| (2) 第8期介護保険事業計画に向けた在宅医療介護連携推進事業の方向性について | |
| 事務局 相原より説明 | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・平成27年度からこの事業が始まったが、町民や専門職のあるべき姿を目標にして皆さんに意見をもらいながら実施してきた。 ・具体的取組の(エ)医療・介護関係者の情報共有の支援が、なかなか取り組めなかったところだが、それ以外は事業として取り組んできた。(エ)については、会議の中でも課題として協議してきたが、美里町が小規模の自治体であり、医療機関との情報共有に関しては広域的に取り組む必要があることから、事業化するのは困難だった。 ・遠田郡医師会や涌谷町と事業について協議し、事業の実施や情報共有を図ることができた。 | |

| | |
|------|---|
| | <ul style="list-style-type: none"> ・町民や医療、介護の従事者が医療や介護について情報を得る場が増えてきたが、介護事業所や医療機関どうしの連携については、今後も検討が必要である。 ・認知症に関する相談は減ることはないので、今後も検討が必要である。 ・第8期介護保険事業計画では、住民や医療および介護の従事者が、医療や介護についての理解を深め、住民が住み慣れた地域で自分らしい暮らしを続けることの支援や生活ができることを目指し、重点的に取り組む事項を3つあげて取り組んでいきたい。 |
| 野田委員 | <p>質問や意見はあるか。</p> <p>連携シートについて、実際活用されているのか。</p> |
| 相原 | <p>町独自のものは特に作ってはいない。看護協会やケアマネジャー協会、事業所独自のものがある。また、加算に係る内容で決まったものがあったりする。既存のものを使っている状況で、それ以上の取り組みはしていない。実際、取り組もうとしても、美里町はあらゆる地域に主治医がいるので、町内だけで連携シートを作っても活用の効果はどうかと思うところである。</p> |
| 大蔵委員 | <p>今後、涌谷町との共同の可能性はあるのか。</p> |
| 相原 | <p>協議はずっとしてきたところだが、来年度も会議は別々に行いながら、事業は一緒に実施したり、後程説明するが、情報のためのマップ作成を一緒に行いたい。行政の方で無理に一緒にするのではなく、委員の皆さんの意見を聞きながら、一緒になっていけるのかを探るということになるだろう。</p> |
| 大蔵委員 | <p>それぞれの町だけの取り組みだと、研修会一つするだけでも参加者が少なく小規模になり、演者に申し訳ないと思うところがある。合同でやっても、それぞれの取り組みがなくなるわけではないし、別々にすると非効率的なところが目立ってくるなという印象がある。</p> |
| 相原 | <p>従事者の研修会については、今後も一緒にやっていくかたちになると思う。また、美里町では、ケアマネジャーや介護従事者への研修会を年間5回程実施しており、必要な事項があれば涌谷町の事業所にも声をかけているので、今後も続けていきたい。</p> <p>住民への啓発についてだが、私たちだと講演会を計画しがちである。去年度は伊藤委員、今年度は吉村委員が講師になって講話をもらった。身近なところで相談にのってくれる人がいたり、支援してくれるところがあるということ、相談は行政でも他のところでもできるということを知って周知してきたところである。もっとこういうやり方があるのではないか、これで良いのではないかな等の意見をいただくと、取り組む方向がみえてくるのではないかなと思う。</p> |

| | |
|-------|---|
| 尾形委員 | 講演会だと、独居の方や高齢世帯の方は来れないのではないかと思います。そういう方に限って、認知機能が低下しているケースがあると思う。そういう方への啓発は、今後どのように進めていくのか、何か方針はあるのか。 |
| 相原 | コミュニティセンター単位で行う認知症カフェを行っていきたい。地域包括支援センターの職員が出向き、コミュニティセンターの方と一緒に取り組むことを考えている。地域の民生委員にも協力してもらい、地域の方に声をかけてもらったり、相談できる場所があるということを知っていていけると良い。実際には来れる方ばかりではないので、この機会を通じて、こういう人がいるので行ってみたい等という地域からの情報を共有できる機会にもなれたら良いと思っている。 |
| 尾形委員 | 民生委員は高齢の方が多いのか。 |
| 相原 | 最近はやい方もいる。積極的に報告してくれる方がいてとても助かっている。 |
| 尾形委員 | そういう方が増えると、フットワークが軽くて良いと思う。 |
| 大蔵委員 | 涌谷町でもカフェをしていたが、今も続いているのか。 |
| 中野目さん | 続いてはいるが、コロナになってからはカフェという形ではなく、以前はテーブルを囲っていたが、講義形式にしているので、参加者は少なくなっている。今月も開催するが、事前申し込み制にしたら、今のところ参加者がいないという状況である。 |
| 大蔵委員 | 全国的に、コロナになってからカフェが下火になってきている。しばらくは、カフェという方式がうまくいかない可能性もある。研修会もそうだろうが、色々手を打ちながらしていくしかない。でも、町民は、研修会は来やすいのではないだろうか。ストレスなく話を聞くことができ、カフェだとアクティブにいかないといけなかったりする。 |
| 相原 | 研修会の方が、実は希望者が多い。 |
| 大蔵委員 | 感染対策をしっかりと行えば良いのではないか。しかし、伊藤委員は講師をしてくれたが、20人とか25人だとスピーカーとしてはづらいのではないか。 |
| 伊藤委員 | 参加者の反応を見るなら、あまり人数が多いと掛け合いが難しいので、30人位だと反応が見やすいと思う。 |
| 大蔵委員 | しかし、30人程度だと広がっていかないだろう。 |
| 伊藤委員 | 参加してくれた民生委員が、また開いてほしいという要望があり、そういう広がりはある。 |

| | |
|-------|---|
| 大蔵委員 | 来れる、来れないはあるだろうが、回数を増やしていくと、その中の1回くらいは何とかして来れたりすることもあるのではないか。 |
| 相原 | 今は、大規模に行うのが難しく、伊藤委員が言ってくれたように、研修会や講演会の希望があった地域や団体に少人数でも行い、回数を増やす方法しかないのではないかと考えている。 |
| 伊藤委員 | 田舎なので、少人数だと質問がしやすく、住民の声は聞きやすいと思う。大人数だと誰も手を挙げる人がなく、こちらからの一方的な話だけで、はね返りがなくて寂しいなという感じはする。 |
| 野田委員 | 伊藤委員の研修会では、参加者は民生委員が多かったのか。 |
| 相原 | その時は、現場で相談にのる方に訪問看護ステーションを知ってもらうことを目的としたので、主体を民生委員やボランティアとして研修会を開いた。予想以上の参加人数で、20～30人では済まなかった。今年も、民生委員からまた同じものをしてほしいという希望が出ていて、日程等の調整をしている。 |
| 大蔵委員 | 今回は、吉村委員が25人に話をしている、その内の3人は民生委である。約20人の町民に吉村委員の良い話を聞いてもらっても、そんなに効果はないと思ってしまう。やったという事実は残るが、美里町全体にどういう影響があるかというのを考えると、もっと他に良い方法がないのかと思ってしまう。 |
| 相原 | その辺を、事業のやり方として来年度も検討していけると良い。 |
| 大蔵委員 | 目的は正しい知識を多くの方に啓蒙することなので、やはり、拡散が大事にはなってくる。そういうことを言うと、YouTubeで配信しようということになるが、必要な人たちはYouTubeを見られない人が多いので、例えば民生委員に話を聞いてもらって広げていくなど、そこはシステムティックに考えていった方が良いと思う。 |
| 野田委員 | 今流行りのWebセミナーみたいなのを各地区に配信することは難しいのか。 |
| 相原 | やっても良いが、高齢者は、ホームページの見方も分からない方もいる。 |
| 大蔵委員 | 各地区に、例えば20人集めて、そこでZoomで配信して、パブリックビューイングを試みる。20人の集まりが5か所あれば、100人に拡散していくことができる。 |
| 佐々木委員 | 各地区に協力してくれる人を募って、そこから広めていけると良い。 |
| 相原 | 今後、協力してくれる人について考えていきたい。 |
| 佐々木委員 | 民生委員は、色んなことがあって大変なので、また新たなものとい |

| | |
|--|--|
| | うと辞めたいという人も出てしまうかもしれない。別の形でできると良いと思う。 |
| 野田委員 | 町の若手のスタッフにやってもらうというのも良いのではないか。最初は大変だが、一回、システムを作ってしまうえば良いだろう。 |
| 相原 | 後で説明する予定だが、今回、従事者研修会も福祉事務所に協力いただいで行った。最初は中止の話も出たが、今後、新型コロナウイルス感染症とは付き合っていかなければならないので、実施できる方法を検討して開催した。 |
| 野田委員 | 他に意見はないか。 |
| | (意見なし) |
| その他 (1) 在宅医療介護連携推進事業の報告について | |
| 事務局 小林より説明 | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・地域住民の啓発として、10月20日に町民公開講座を開催した。ケアマネジャーである吉村委員が講師となり、具体的な事例を紹介してもらうことで、住民が医療や介護について少しでも理解し、今の生活に活かしてもらえる内容にした。アンケートからは、相談先が分かり安心したとの意見がある一方、相談窓口については伝わっていない方も多くいることが分かり、継続した周知が必要だと感じた。 ・従事者研修会を10月30日に開催した。新型コロナウイルス感染症予防のため、県の協力をもらいながら、初めて Zoom を活用して実施した。参加できなかった方に対し、動画をホームページに掲載する予定でいる。従事者には、今後開催する会議や研修会等で動画について周知する方向で考えている。 | |
| 武田委員 | この研修は、今年の11月頃から企画していたものだった。3月に中止した以降、介護事業所で新型コロナウイルス感染者が出たりしたが、そういった中でも、介護サービスを提供する事業所や、医療を提供する病院にとって、在宅医療と介護の連携は大事なキーワードであり、このテーマで研修会が開催できないかと考えていた。今回、Zoom を活用して行うことができた。合同庁舎でウェブ会議は行っていたが、研修会をするのは初めてだったので、音声や画像が送れないところがあった。先ほどの啓発の方法について、講演会以外にも幅広く行う方法についての話があったが、Zoom に限らず、大事なテーマに関しては、コロナ禍でもいろんな手段を考えていき、こちらもその手伝いができればと思っている。研修会の映像は編集が終わっていて、講師の三原さんに確認して修正をしているところなので、来週ぐらいには県のホームページに動画を掲載できると思う。コロナ禍は今後厳しい状況になると思うが、どんな状況でも情報共有ができ、目的を達成できるようなサポートができればと思う。 |

| | |
|----------------------------------|---|
| 小林 | Zoomでの研修は初めての実施だったが、もっとこうできれば良かった等、意見があればお願いしたい。伊藤委員はZoomで参加してもらったが、どうだったか。 |
| 伊藤委員 | 行政説明資料の画像が見えず、私だけなのかと不安になった。 |
| 小林 | 行政説明のところは、資料もだが音声がよく聞こえなかったとZoomで参加した方から後で聞いて分かった。そういったトラブルが改善していけると良い。 |
| 大蔵委員 | 東京に帰る車の中でZoomで聞いていたが、非常に良かったと思う。三原さんの発表自体もすごくまとまっていて良かった。唯一、合同庁舎で話しているところだけが聞こえにくかったが、あとは良かった。先ほどの話に戻るが、美里町、涌谷町単体ではできないことも、美里町、涌谷町、県と協力することでできることがあるので、この形で実施していくことで良いのではないか。 |
| 小林 | 町単位だと難しいというところもあるので、県の協力もいただきながら、多くの方に参加してもらえる方法を考えていきたい。 |
| (2)「わたしたちのまちの在宅医療と介護マップ(仮称)」について | |
| 事務局 小林より説明 | <ul style="list-style-type: none"> ・涌谷町で使用しているパンフレットを基に、令和3年度は涌谷町と美里町の資源を掲載したパンフレットを作成する予定でいる。 ・活用方法としては、相談時に使用したり、研修会の参加者や住民から相談されることが多い民生委員等への配布を検討している。また、医療機関や介護保険事業所にも情報共有できるように配布することを考えている。マップが完成した時は、広報等で周知していきたい。 |
| 野田委員 | とても見やすくまとまっているパンフレットだと思う。 |
| 相原 | 何か意見があったら、後からでも良いので教えてほしい。 |
| (3)高齢者の保健事業と介護予防の一体的事業について | |
| 事務局 相原より説明 | <ul style="list-style-type: none"> ・長寿支援課だけでなく、健康福祉課、町民生活課と一緒に進めていく事業である。 ・介護保険の新規申請理由として、認知症が多いが、他にもADLの低下やそれを予防したいという理由の方も多くいる。そういう中で、ポピュレーションアプローチとして、一般の高齢者が集まる場に出向いてフレイル予防を啓発していきたい。また、ハイリスクアプローチとして、特定の方、医療や介護につながっていない町民をピックアップして、生活の実態を把握して必要な医療や介護につなぐと同時に、必要な施策を検討していきたい。 ・各専門職、専門職の団体との連携が不可欠なので、来年度以降もこの会議で実施状況を報告しながら意見をいただきたい。 |

| | |
|----|------------------------------------|
| | (特に意見なし) |
| 渡辺 | 年明けに第3回目の会議を開催したいと思うので、よろしくお願いしたい。 |
| | 終了 午後7時50分 |

上記会議の内容に相違ないことを証するため、ここに署名します。

令和 年 月 日

委員 _____

委員 _____